

## VI 成果と課題



今年度の成果（○）と課題（●）

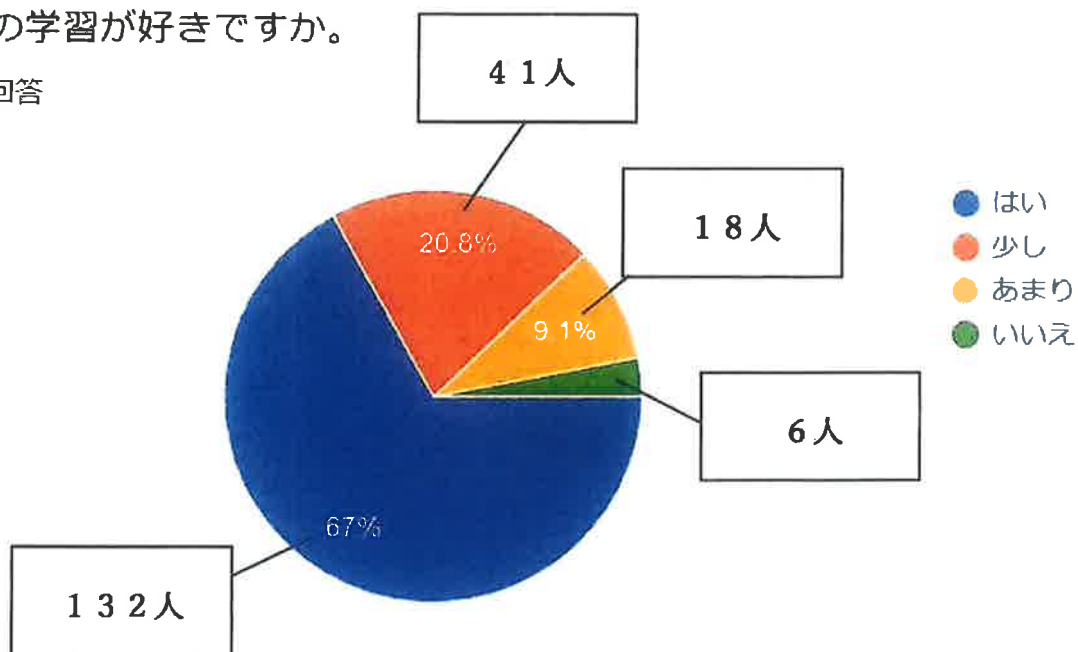
- 基礎感覚づくりを通して、主運動につながる動きを習得させることができた。
- ホワイトボードとマグネットを活用することで、自己の課題を意識させることができた。
- つまづきのポイントを教師が見せたことで、お手本の児童の動きと比較することができた。
- オノマトペを教師が使うことで、児童にどこがポイントなのか意識させることができた。
- 様々な場の工夫をしたことで児童が意欲的に学習に参加することができた。
- 運動遊びや練習の場を選択できる場を設定したことで、どの児童も自身の力に応じて活動することができた。
- 振り返りの視点を焦点化することで、授業のねらいに即した振り返りを行うことができた。
- 友だちからのアドバイスや友だちの動きのよさを付箋紙に書かせて掲示したことで、互いに認め合う集団作りを行うことができた。
- C 評価にあたる児童への手立て。
- 体育科における言語活動の充実に向けた取り組みが必要。
- 様々な場を設定することができたが、活動中における安全確保が今後の課題。
- ICT 機器の活用が授業のねらいに迫るために効果的であったか、検討が必要。
- 思考を広げたり深めたりする発問の工夫が授業の中であまり見られなかった。
- 学年の系統性をおさえた指導を全学年で共通理解する必要がある。
- 安全面を確保し、学習効果を高めるためにも、学習規律を定着させる必要がある。
- 活動する時間、活動を工夫する時間、児童同士で伝え合う時間などのバランス（タイムマネジメント）を考える必要がある。



船越小学校体育アンケート（令和5年2月実施） 3年生～6年生

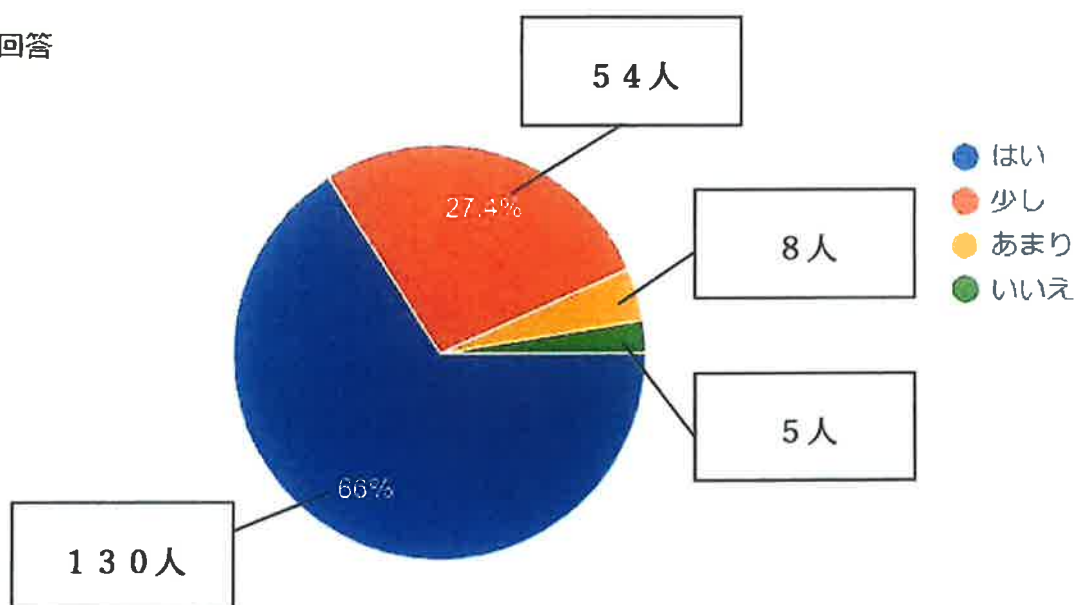
①体育の学習が好きですか。

197件の回答



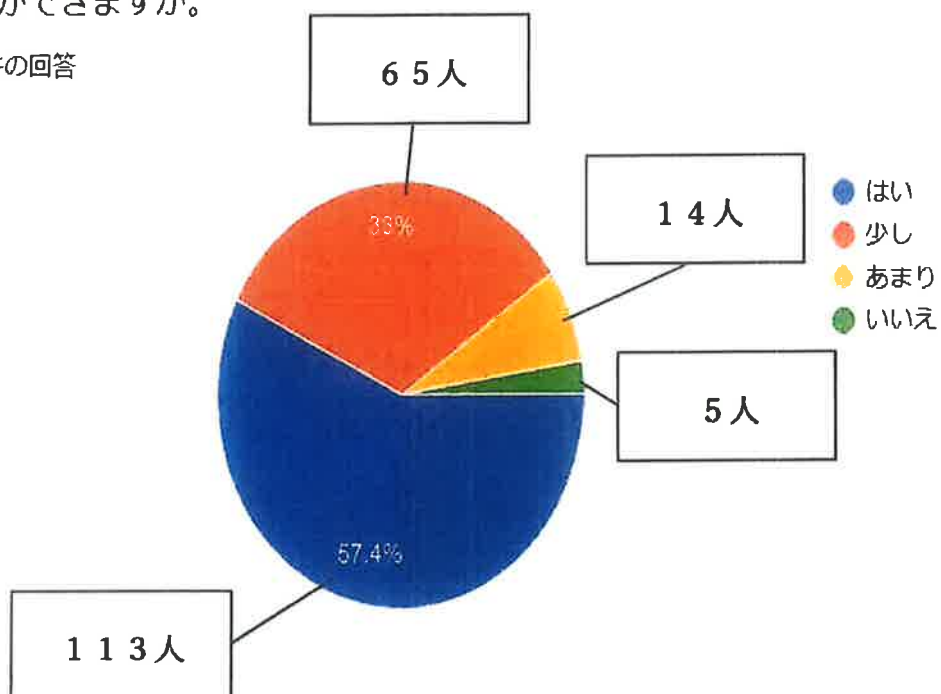
②体育の学習では、さいごまであきらめずに運動にとりくむことができますか。

197件の回答



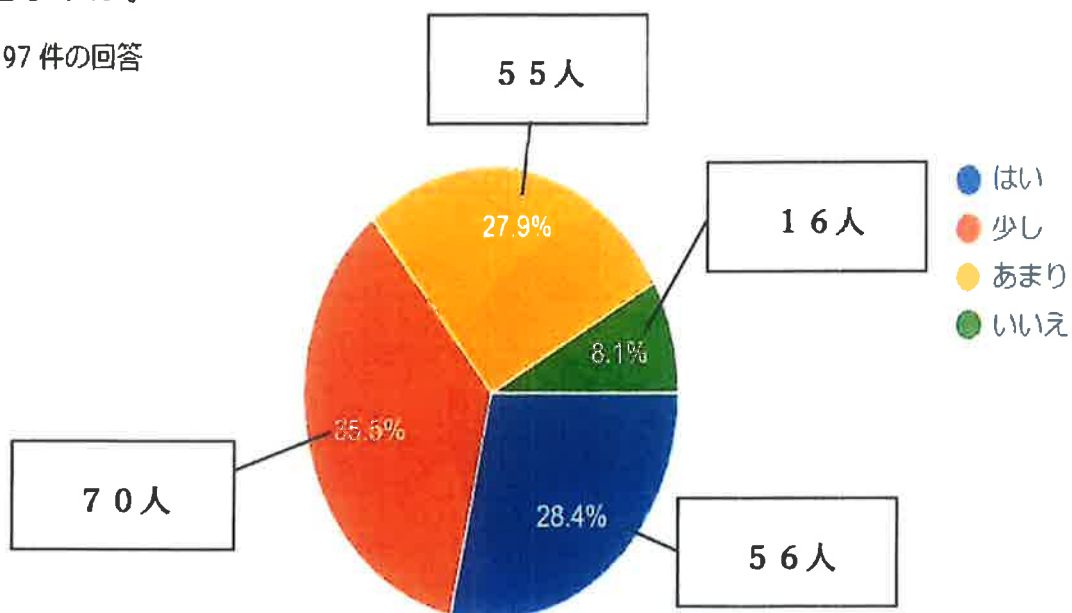
③体育の学習では、ちょうどしたい動きに合わせて、運動する場所やあそびをえらぶことができますか。

197件の回答



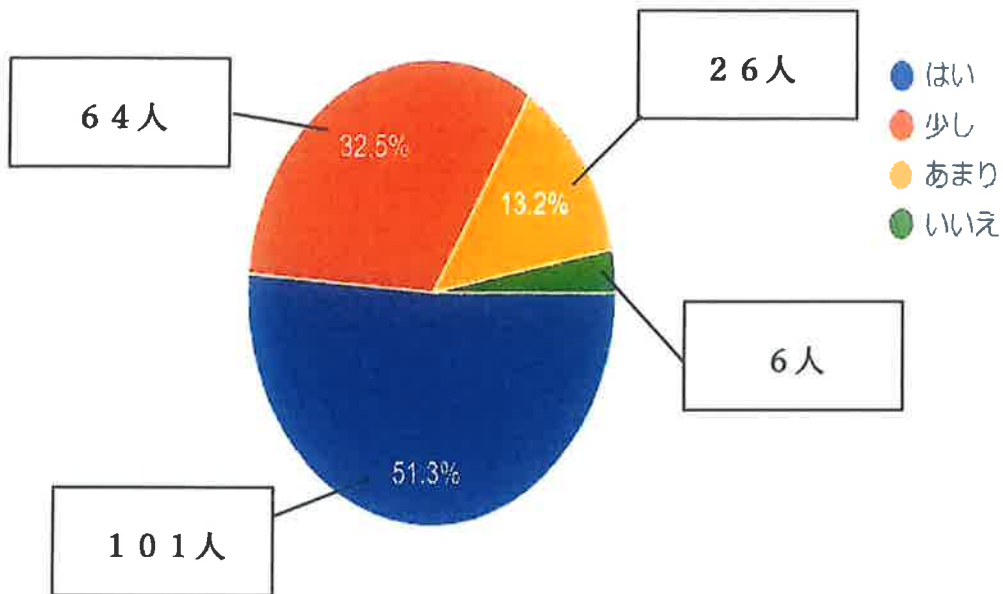
④体育の学習では、動きのこつや新しいあそび方などを友だちや先生に伝えることができますか。

197件の回答



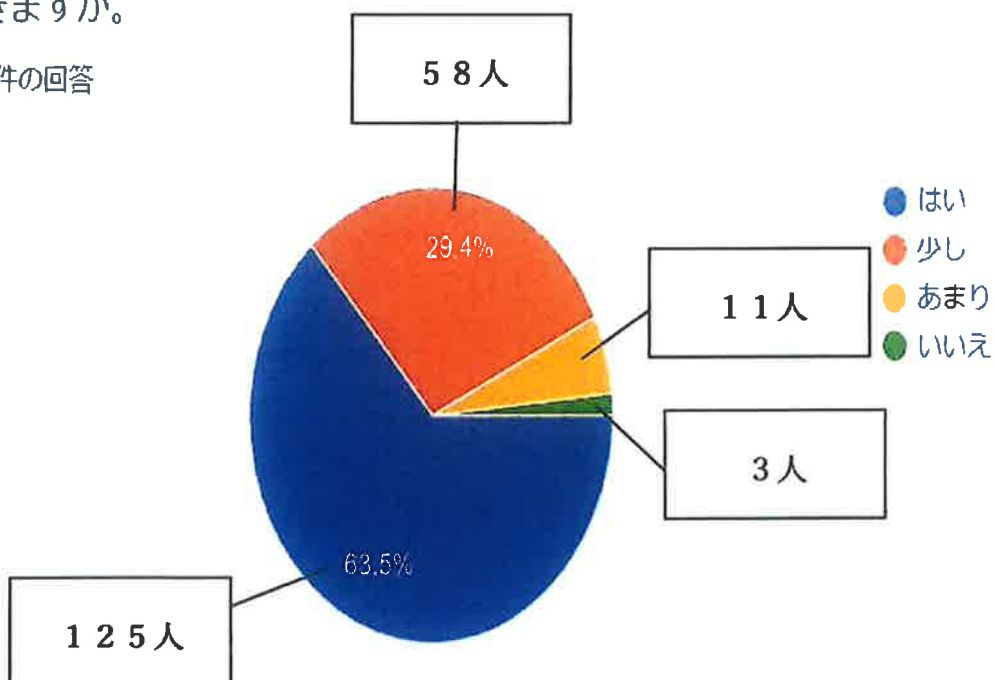
⑤体育の学習では、友だちのじょうずな動きやまねしてみたい動きを見つけることができますか。

197 件の回答



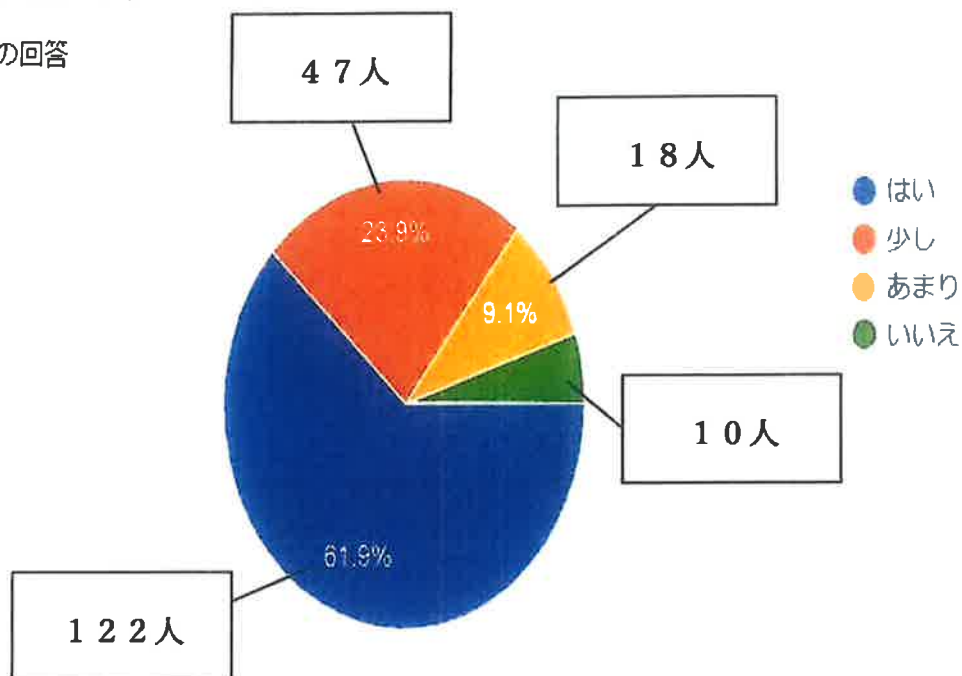
⑥体育の学習では、動き方やあそび方を理解して（知って・分かって）活動することができますか。

197 件の回答



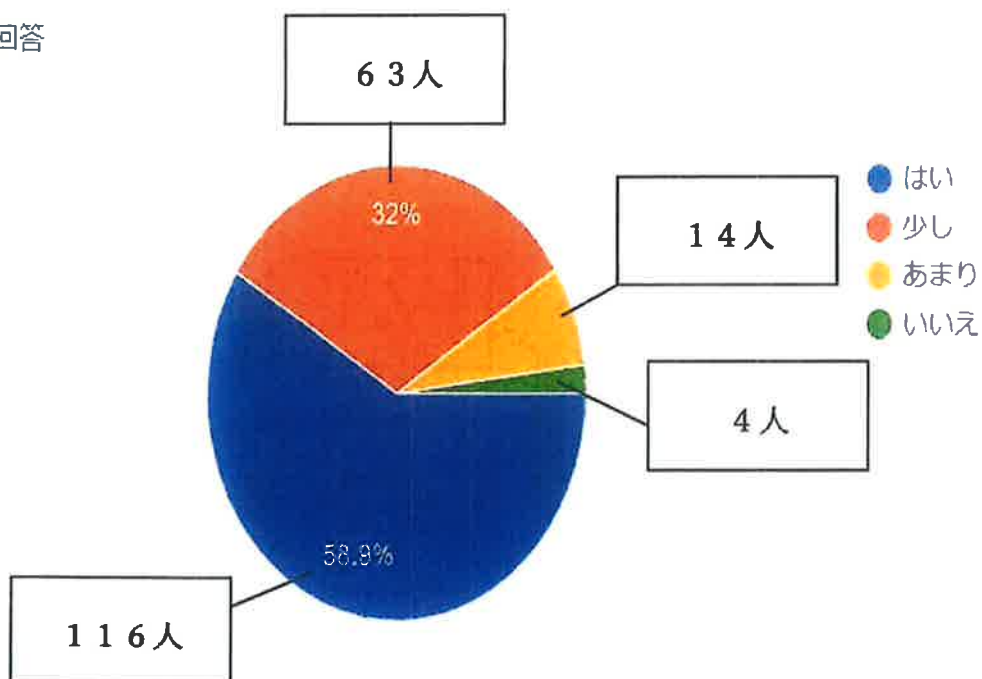
⑦体育の学習の中で、友だちからおうえんされたり、こまったときに助けてもらったりしたことがありますか。

197 件の回答



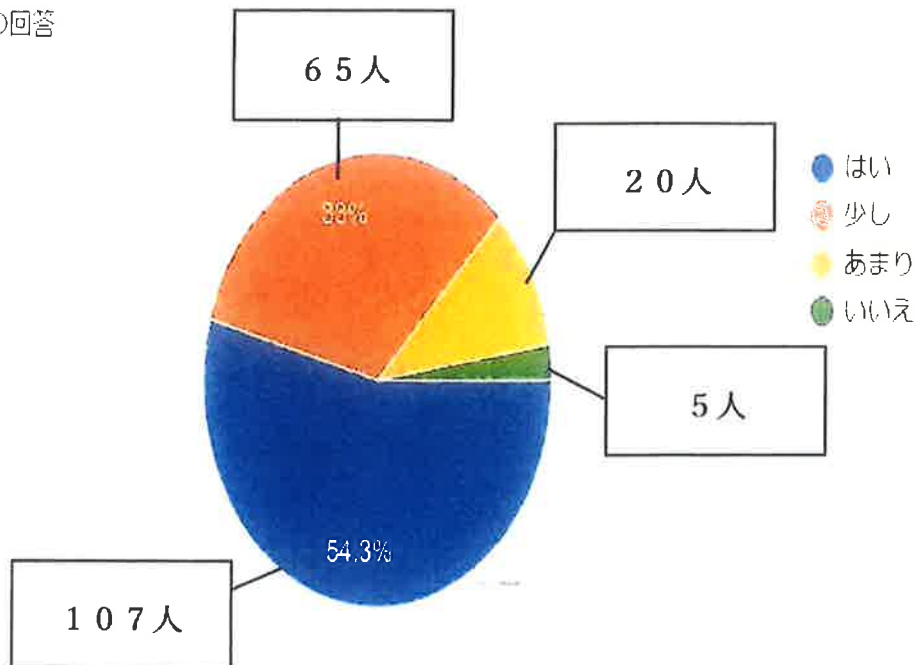
⑧体育の学習の中で、友だちをおうえんしたり、こまっている友だちを助けたりすることができますか。

197 件の回答



⑨まだできない動きやむずかしい動きでも失敗をこわがらないでちょうせんすることができますか。(これでアンケートはおわりです。)

197件の回答



アンケート結果より

どの質問事項も肯定的な回答が半分以上を占めている。しかし、質問事項①「体育の学習は好きですか」に対して約10%（6人）の児童が「あまり」「いいえ」と回答を選んでいる。各学年1人～2人程の人数ではあるが、豊かなスポーツライフの実現するための資質・能力を育成する上で、体育嫌いの児童を1人でも多く減らすことが重要だと考える。そのためにも、体育を苦手としている児童がどのポイントに楽しさを感じるのかを把握し、それをふまえた授業づくりを進めていく必要がある。また、質問事項④、⑤、⑨より「見つけたことや考えたことを他者に伝えること」「仲間の動きなどから動き方のこつやポイントを見つけること」「新しい動きや難易度が高い動きに挑戦すること」へ苦手意識を持っている児童が多いことが分かった。見つけたことや考えたことを他者に伝えるためには、児童自身が課題や問い、考えを持っていなければならない。上手くいかないことや困っていること、もっとできるようになりたいことなどから課題形成を行い、その課題から生まれた問いや考えを児童が持った上で、伝え合う活動を行うことが大切だと考える。